

大学におけるDXの取り組み

昨今、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による改革が政府、自治体、多くの企業で求められているが、大学におけるDXの目的は、企業等の営利目的の組織とは異なり、「教育・研究の質の向上」にある。紙媒体で行ってきた業務をそのままデジタル化することは単なるICT化に過ぎず、業務の効率化は図れない。教員が教育・研究に専念できるためには何が必要か、また学生の成長を促すには何が必要か、従来までの大学運営や業務の方法を変えていくためには、システムを買うのではなく、自分たちで考えを巡らせる必要がある。DXマインドと技術の重なり合う営みをどのように進めていくべきか、東洋大学における試行錯誤の状況を紹介する。



新山 文洋 氏 (東洋大学 学長室学長事務課 課長)

2002年東洋大学入職、図書館事務部図書事務課、文学部教務課を経て、公益財団法人大学基準協会専門職員（出向）。現在は、東洋大学学長室学長事務課とともに大学評価支援室、高等教育推進支援室、情報システム部情報企画課を兼務。

日時

8月19日 金
13:30 - 14:30

対象

全教職員
(参加申込不要 / 参加費無料)

開催方法

Zoom ウェビナー

Zoom ID / パスコード

info@MUSES をご確認ください

参加方法等

- ◆今回は講演会の開催テーマに鑑み、Zoom ウェビナーのみでの実施となります。
- ◆オンラインでの参加は、@mukogawa-u.ac.jp のメールアドレスに届いたメールから Zoom にご参加ください。メールが届かない場合は、上記 ID・パスコードを入力の上、ご参加ください。
- ◆当日の参加が難しい場合は、後日オンデマンド配信を行いますのでご視聴ください（詳細は info@MUSES にて後日ご案内します）。
- ◆本講演会は、全学的FDの取り組みとして助教以上の教員（専任・嘱託）については、参加記録を取らせていただきます。